
マスターローズランド

池谷美咲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マスタークロースランド

【Nコード】

N5982C

【作者名】

池谷美咲

【あらすじ】

舞、仁、凜、翔、この4人は夏、仲良く遊んでいた。そして仁がある入り口を発見！4人はその中にはいるが、出たところは……・？この夏一生忘れられない体験を4人は体験することになる。

ブローグ

今は2007年、7月30日ちょうど夏休みするとき、宿題もせず仲良く遊んでいる中学2年生の4人組がいた。

とてもおしとやかだけど、人をからかうのが好きな卯月舞^{うさぎまい}。

明るくて元気、スポーツ万能な松下凜^{まつしたりん}。

とっても頭がよくて、好奇心旺盛な望月仁^{もちつきじん}。

ちょっとひねくれもの、でも友達思いな黒羽翔^{くろばしやう}。

この4人組がこの夏休みが暇ではなくなるような体験をするとは、だれも思わなかった。

その日、舞たち4人は近くの川で遊んでいた。

「マイ〜!! ちよつとこつち来て〜!!」

凜はおとなしい舞をよんだ。

「ん〜? なに〜? きゃ!」

舞が近づくとすかさず、凜は思いつきり水をかけた。

「きゃははは! ひかかった〜!!」

「も〜!!」

そついいながら舞と凜は楽しそうに笑った。

「リンおまえばつかみてー。」

翔が凜に言いながら水をかけた。

「わぁ！やめてよ！シヨー！！」

「何つつた？なーんも聞こえねえ。」

「やめろっていつてんのよ！！」

凜はそういつて翔に水をかけた。

「おわつ。なんだあゝ？やんのか？」

「ふん！そんなこと言ってるのも今のうち！」

「なんだとおゝ。このやろつ！」

凜と翔の水の掛け合いが始まった。

舞はそんな2人を見て、くすくすと笑っていた。そして、仁がいなかったので、仁を探し出した。仁は川のすみっこのほうでなにかを探していた。

「ジーン、なんやってるのゝ？」

舞は仁のところに近寄り。声をかけた。

「ん？ああ。マイか・・・。」

「誰だと思った？もしかして、リン？期待させちゃったかな？」
舞はおもしろそうに言った。

「は？マイなにいつてんだ？」

「まあ。それはいいや。で、ジンなにやってるの？」

「ああ。なんかどこかの入り口みたいなこと見つけたんだ。行ってみる？」

仁は舞にいった。

「行く！リンとショーも呼んでくるね！」

そう言った舞はすぐ、まだやり合いを続けている凜と翔のところへ走って行った。

「リン！ショー！ジンがなんかおもしろいの見つけたって！行こ！」

凜と翔は立ち止まり、目をきらきらさせて言った。

「え！なにソレ。絶対行く！！！」

「ジンがなんか見つけたのか！よっしゃ！なんか楽しそうだな！」

舞はそんな2人を見て、まったくすくす笑った。

「？ なに？どうしたの？マイなんで笑ってるの？」

凜はおなかをかかえて笑う舞を不思議そうに見た。

「いや。2人ともすごいにってるなッて。」

「なに言ってるのマイ！私がこんなナルシと似てる？そんなわけないでしょー！」

「そうだマイ！オレがこんなブスといっしょなわけない！」

「ちょっと！ブスってだれのこと？」

「おまえのことだよリン。それよりだれがナルシだてめえ。」

「あんたのことよ！」

「はいはい！もうじゃれ合うのはいい加減にして！いつまでも決着つかないんだったら、ジンのとこまで競争したら？」

「あ！マイそれいい！！」

「おれはいやだね。だれがこんなやつと……。」

「へえ〜。私に負けるのが怖いんだ。」

この言葉に翔は立ち止まった。

「まあたしかにあんた1度も私に勝ったことないもんねえ〜。この女の私に男のあんたが負けてるもんねえ〜。」

「んだと……。よし！いいぞやってやる！！」

「ねえマイ！よいドンっていつてくれない？」

「え？うん。わかった。よい……ドン！！」

舞の言葉に凜と翔は同時に走りだした。が……。確実に凜の方が早く仁のところについた。

「やったあ！いっちばーん！！」

「くそ〜負けた……。」

翔は凜の勝ち誇った顔を見て、悔しそうに言った。

「ジン！2人をつれてきたよ！」

「ん。んじゃこっち来て。」

仁は川の滝になっているところに行った。

「あれだよ。」

仁は滝つぼのところをさした。

「あー！」

3人がみると、そこには丸い円で中がどこかに通じそうなかんじになっていた。

「わあ！ねえねえ！入ってみようよ！」

「そうそう！入ろうぜ！」

凜と翔はきらきらと目を輝かせながら言った。

「駄目！！そんなとこに入ったらどこに繋がっているかわかんないし、入ってみて帰れないかもしれないんだよ？！わかった？つておい！！リン！ショー！マイ！」

仁が2人に説教しているあいだ。他の3人はその円の近くまで歩いていった。

「ねえジン！入ってみようよ！」

「そうよ！こんなわくわくすることないんだよ？」

「早く来いよジン！」

3人はそういつて仁を呼んだ。

「まったく。どうなるかしらないよ。ホントに・・・。」

仁はブツブツとグチを言いながら3人のところに行った。

「じゃあ。私が最初に入る！！！」

凜は大きくてを挙げ、仲に入ろうとした。

「ちよつとまった！ぬけがけすんじゃねえ！俺が先に入る。」

突然翔がわりこんで来たので、2人は一緒に入った。

「あ！リンまってよお！」

舞は仁の手を引つ張り中に入った。

「え？おい！やめろおゝ！！」

仁は何か叫び声を上げながら中に入った。

そのとき4人が入った丸い円はだんだんと小さくなっていき。消えた。

プロローグ（後書き）

なんか変になってしまいました・・・。よかったら感想などを頂けるとうれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5982c/>

マスタークロースランド

2010年10月9日13時38分発行